

## 農業用電力の改善について

最近、施設園芸や水産、畜産、果樹など、化石燃料から電気を利用したの冷暖房を行う施設が増えている。

又、地理的・政治的リスクやCO2環境問題、為替等のリスクなどの問題もあり、電化の傾向にある。ヒートポンプを利用して野菜、花、果樹を栽培すると、ボトリチス病、軟腐病、カビ病等の病気を抑える効果があり、減農薬が図れる。

「生き物」、「植物」を扱う農業では、季節に関係なく、24時間稼働させて生産・経営を行う実態にあり、諸外国のような「安価な料金制度の農業用電力」に改善してコスト軽減を図り、農業所得の向上と国際競争力を強化する仕組みが必要である。

このようなことから、農業用電力を以下の制度、仕組みに改善することを要望します。

1. 昭和27年に導入された「農事用電力」の利用範囲を農業一般（特に施設園芸）に拡大すること。
2. または、平成20年度に創設された「農業用電力」を次のように改善すること。
  - (1) 基本料金の改正  
デマンド方式から、トランス契約（実量制度）に変更すること。
  - (2) 季節別時間帯別料金の改正  
「生き物」、「植物」には、季節や時間帯で料金を制定することがなじまないため、低料金を制度化した農業専用の料金体系をとすること。

# 農事用 電気料金の比較

	基本料金(円)	指数	電力料金(円)	指数
韓国	109.20	100	3.72	100
台湾	921.20	843	夏季 11.5 その他 11.2	309 301
東電 農事用	432	395	夏季 15.80 その他 13.99	427 376
東電 低圧	1101.60	1,009	夏季 19.33 その他 17.38	520 478
東電 高圧	1269.00	1,162	夏季 19.32 その他 18.21	519 492

※農事用電力は、昭和27年に制定された灌がいのみの料金です。 東京 夏場 7～9月  
 燃料調整費 0.861 円/kw ←毎月変動します  
 再生可能エネルギー賦課金 1.5 円/kw 平成27年度  
 その他 10月～6月

電気料金にプラス⇒ +2.36円